

～益田地区～

里親会だより

第 3 号

(平成30年 3月発行)



◆発行：島根県益田地区里親会・島根県益田児童相談所
〒698-0041 島根県益田市高津四丁目7番47号
(益田児童相談所内)
TEL：(0856) 22-0083 FAX：(0856) 22-0075

■ イチローの記者会見から思うこと

島根県益田児童相談所長（益田地区里親会顧問） 寺本 年生

2018年3月7日、メジャーリーガーのイチロー選手が6年ぶりにシアトル・マリナーズに復帰し、記者会見が行われました。

会見では、まずイチローの自宅はずっとシアトルにあったこと、復帰したい思いはいつも心のどこかにはあったけど、それを自分からは表現することはできなかったこと、が語られました。

「でもこういう形でまたシアトルのユニフォームを着てプレーする機会を頂いたこと、2001年にメジャーリーグでプレーすることが決まった時の喜びとは全く違う感情が生まれた。とてもハッピーです」

イチローの一言一言から、行間に詰まったこれまでの思いのようなものが、ひしひしと伝わり、何だか圧倒され、久し振りに鳥肌の立つような感覚で、テレビ画面に集中していました。

「いろいろなことを経験しました、この5年半、また耐性が強くなったと思います。いろいろなことに耐える力、これが明らかに強くなったと感じています」・・・**耐性**

「僕自身は泰然とした状態であったと思います。泰然というのは、自分がプレーヤーとしても人間としても常にそうでありたいという状態、目指すべき状態。そういう自分に出会えたのは、とても嬉しかったです」・・・**泰然**

日常会話ではほとんど使われることの無い、小難しい言葉がイチロー自身の日常的に使う言葉で補足的に説明されるのを聞くと、じんわりと心にしみてきました。あらかじめ考えていた言葉なのか、それともあの場所で瞬間的に閃いた言葉なのか。でも、そんなことはどうでも良いですよ。それがイチロー自身の口から紡ぎだされた言葉であることが何より重要だからです。

押したり引いたりのは巧さは、一問一答の会見なのに、まるで優れた話術に触れているようでした。

「よく『50歳まで』という話をされることが多いと思いますけど、僕は『最低50歳まで』と言っているの、そこは誤解しないでほしいですね」

この^{くだり}件を最後に、イチローの記者会見は終わりました。イチローが好きな人も、そうじゃない人も、誰も無視することができない、そんな記者会見だったなと思います。しばらく余韻に浸りながら、イチローが語った『耐性』と『泰然』のキーワードを頭の中で反芻しているうちに、自分の身近にもこの二つを日常的に実践している人たちがいらっしやることに気がつきました。

そう、子どもたちに自身の家庭を安心・安全の場として提供し、ともに生活している里親さんたちです。自分は割と長く島根県の児童相談所に勤務しており、これまで里親さんたちの思いや悩みを聴き、一緒に考える機会が良くありました。殆どの里親さんは、委託された子どもとの生活の中で、赤ちゃん返りや試し行動に忍耐強く対応し（耐性）、思春期の問題行動や子どもへの真実告知についても、子どもの前では怒りや戸惑いなどを抑えて冷静かつ毅然とした態度で（泰然）、関りを継続しておられます。そのうえ、実年齢などは関係なく、颯爽とお元気にそれぞれの地域でご活躍なさっています。里親家庭で生活する子どもたちにとって、里親さんはまさしく、イチローそのものではないでしょうか。この里親だよりが発刊される頃には、既にメジャーリーグも開幕していることでしょう。自分としては今シーズンのイチローの活躍を期待しつつ、日々、奮闘していらっしやる里親さんたちに対しても、微力ながらエールを送り続けようと思っています。

益田地区里親会 会員数 （平成30年3月31日現在）

平成29年度、2名の方が専門里親研修を修了され、登録となりました。
現在登録に向け準備中の方、これから研修を受講される予定の方もおられます。

養育里親		元里親	合計
15組	うち兼養子縁組里親 2組	2組	17組
	うち専門里親 5名		

お知らせ

～第62回島根県里親大会～

今年は、江津市での開催です。会員のみなさん、一般の方、関係機関の方ぜひご参加ください。

- ★期 日：平成30年7月28日（土）
- ★会 場：地場産業振興センター（江津市嘉久志町 TEL0855-52-0600）
- ★内 容：
 - ・長野大学 上鹿渡和弘教授による講演
 - ・乳児院の取り組み報告（内容：つなぎ保育について）
 - ・閉会式後に交流会（自由参加）があります。

【お問い合わせ：浜田地区里親会事務局(0855)28-3560 まで】



知ってください
「里親」のこと

～活動をふりかえって～

○平成29年5月 『益田地区里親会総会』

総会前に益田児童相談所の職員と一緒にランチミーティングを行い、ケースワーカーさん、心理司さん達と顔合わせをしました。

総会は、残念なことに参加者が少なく寂しい会となってしまいました。

会員が一堂に集える機会ですので、皆様の参加と活発なご意見をお願いいたします。

○平成29年5月 『中国地区里親大会 in 出雲』

約200名の参加があり盛会に終了いたしました。

どの分科会も活発に意見・情報交換がされていました。

他地区や他県の里親さんとの出会いの場でもあります。

今後も多くの方に参加していただきたいと思っております。



～岩本会長による開会のことば～

○平成29年11月

『里親制度普及啓発活動』（主催：浜田、益田児童相談所、後援：浜田、益田地区里親会）

NPO 法人 児童虐待防止協会理事長 津崎哲郎氏をお招きして、『里親家庭の子育てと里親開拓について』講演いただきました。時間が足りなくなるほど興味深いお話を聞くことができました。

○平成29年12月 『聖こう寮との交流会～もちつき～』

聖こう寮、浜田地区里親会との合同交流会です。両里親会からは25名（益田地区は11名）参加、とても和やかな雰囲気でした。

杵と臼を使って『ぺったん』『よいしょ～』とても上手に杵を使う子どもたちと、明日以降の筋肉痛を心配する里親さんたち・・・(笑)心をこめて作ったお餅で、聖こう寮の職員の方がぜんざい、きな粉餅を作ってください、美味しくいただきました。

子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごせました♪



～みんなて記念撮影～

○平成30年2月 『里親ほっとサロン』

益田地区で初めて（ようやく・・・）開催いたしました。

会員同士の親睦を図る、なんでも気軽に話せる場所となることを目指しています。

予定時間いっぱい、いろいろな話に花が咲きました。今後も、場所や開催時間帯を変えながら、引き続き開催していく予定です。どうぞご参加ください。

○このほか、連合婦人会、教育関係、行政機関（相談担当者）の会議等において制度説明、養育体験発表を行いました。

■ ～里親さんからの声～

『専門里親研修を受ける前と受けてから』

山口 真澄

2013年の終わり頃、養育里親の登録証が届いた直後にある男の子を紹介されました。約1年のマッチングを経て2015年の年明けから2016年春まで思春期に入りかけたその男の子をお預かりしました。正味1年半にも満たない養育期間でしたが、それは10年にも感じるぐらいの経験でした。お別れしてもう1年以上もたつというのに、その子のことは今でも折にふれ思い出します。我と私のぶつかり合いはとても苦しく、それを避けようと無理した結果行き詰まり、これ以上受け止めることは難しいと措置解除の道を選ばざるを得ず、こうした経験が専門里親研修受講へのきっかけとなりました。

2016年7月から関連のレポート提出にはじまり、月に2教科ずつ10月まで計8科目の学習。その間8月末に4泊5日のスクーリングを受けに夫婦で上京しました。その後松江や浜田での現場実習と、多くの時間を費やしました。『専門里親になりたい。そういう学習をしたらその子の本当の気持ちがわかるかも・・・』そう思い立ったまでは良かったのですが、ちょうど実家の父親が亡くなったこととも重なり、とても苦しい時期でした。何回も途中で挫折しそうになりました。専門里親への道はとても厳しかったです。

しかし、一連の研修を通して本当に良かったなあ・・・と思えたのは、やはりその子が当時その言葉を吐かざるを得なかった、その時にそういうことをやらざるを得なかった気持ちをハッキリと理解することができたことです。『〇〇君そうだったのか』『〇〇君そうだったんだね』と。それ以来酷い自己嫌悪や自己卑下の気持ちから随分と解放され、一緒に生活できた期間を良かったなあと感じられるようになりました。その子どもが最高にリラックスしていた時の笑顔を思い出せるようになりました。様々な先生のお話を聞きながら、理想的な子育て論を持ち過ぎることや一生懸命になり過ぎることのマイナス面を教わった気がします。自分の性格はなかなか変えられないけれど、思い出してはフッと肩の力を抜いて、いい加減になることも大事。大人も子どもも一人一人”あるがまんま、みんな違ってみんないい”ですね。その子の“今”に必要な場所がその時その時に与えられ続け、その子は与えられた場所ですっかり大事なことを吸収していくのだと思えました。人生に無駄など何一つないと言います。人生何が本当に良くて何が悪いのか・・・それはわかりません。人生悲喜こもごも、毎日毎日そのひとこまひとこまに意味があるのだと思えます。やりきれない思い、苦しい気持ちからはできれば解放されたいけれど、そんな気持ちも大切に持ったまま、我慢せず向き合うことを学べた気がしました。

最後に専門里親研修を終え、益々その関連機関や里親の存在が今後重要になってくることを確認、痛感させられました。里親は良く社会貢献だと言われますが、むしろ私自身が子どもから頂くこと、教えられることの方がはるかに大きいと思えます。将来また子どもの紹介を受けることがあれば、この専門里親研修で学ばせて頂いたことは、きっと無駄にはならないはず・・・と少し希望を抱いているところです。

益田地区の出来事



～「卒業」おめでとうございます(*^o^*)～

●益田地区の里親さん宅で生活中的里子さん2名が、3月に高校を卒業されました。1人は就職が決まり、春からは里親さん宅から巣立ち、社会人としての新しい生活が始まります。1人は大学へ進学が決まり、新たな環境の中で将来の夢に向かって勉強されることと思います。2人とも、健康に留意され、いろいろな出会い、経験を通して成長していってくださることを願っています。

～「受賞」おめでとうございます(*^o^*)～

●益田地区里親会員の山本里母さんが、この度「第39回母子保健奨励賞」(主催：公益財団法人母子衛生研究会・母子保健功労顕彰会、後援：厚生労働省ほか)を受賞されました。山本里母さんは助産師として地域で様々な活動をされており、その業績が顕著であることから受賞されました。

～ありがとうございます m(_)_m～

●昨年に引き続き、伏谷里親さんが役員をされている『有限会社 益田自動車钣金塗装』様より益田地区里親会へご寄付をいただきました。ありがとうございました。

島根県里親会より

●島根県電気工事工業青年部様より、島根県里親会に「里子激励金」をいただきました。「里子さんたちのために役立てて欲しい」と長年にわたり御寄付をいただいています。寄付金は、島根県里親会から県内4つの地区里親会へ配分され、各地区里親会で里子たちのために大切にに使わせていただいています。益田地区里親会では、里子さんへ図書カードを贈呈しています。ありがとうございました。



右：島根県電気工事工業青年部赤木部長様

左：中央児童相談所石橋所長

(H30.1.12 中央児童相談所にて)

★里親会だよりへ掲載したい記事、情報、メッセージなどありましたら、事務局までお知らせください。

はてな



里子が高校生になって、進路のことを考え始めました。
大学等へ進学する場合、就職する場合、いろいろあると思いますが
経済的な面での支援はどういったものがありますか？

措置費で支給されるもののほか、奨学金、民間の助成事業、貸付事業など、今まで里親会へ案内があったものの一部をご紹介します。該当する里親さんへは情報提供させていただいておりますが、ここに掲載しているものがすべてではありません。希望している大学や専門学校に減免制度があるかどうかを確認いただくとよいと思います。

その他、各制度の対象要件や詳細については、関係機関のホームページ等でご確認ください。

助成金

- ・就職・進学等支度支援金助成事業（島根県共同募金会）
委託解除後、就職・進学する児童へ15万円を限度として予算の範囲内で支給。

奨学金

- ・給付奨学金（日本学生支援機構）※申込み手続きは高校から。（5～7月頃）
社会的養護を必要とする生徒も対象。月額と入学時に一時金24万円を支給

民間奨学金

- ・未来のつばさ自立奨学支援制度（楽天 未来のつばさ財団）
全国で支援予定者200名程度。15万円。
- ・JXTG 里親家庭等奨学助成（全国社会福祉協議会）
全国500名程度。10万円。※進学者対象
- ・資生堂児童福祉奨学生（資生堂社会福祉事業団）
全国5名程度。学費等の一部として年間50万円（上限）を支給。
※児童福祉分野で指定された資格取得を目的として入学する者。
- ・雨宮児童福祉財団（雨宮児童福祉財団）
助成対象は入学金のみ。
- ・児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金（朝日新聞厚生文化事業団）
入学金および学生応援金を支給。
- ・あすのば入学・新生活応援給付金（公益財団法人あすのば）
高校卒業生等5万円（全国650名）※自立生活を予定している児童対象
- ・児童養護施設等出身理工系学生助成（公益財団法人畠山文化財団）
※里親家庭で養育中または措置解除された児童で理工系学部へ入学するもの

貸付事業

- ・自立支援資金貸付事業（島根県社会福祉協議会）
生活支援費（進学者のみ）家賃支援費、資格取得支援費
※委託解除となった児童。無利子、返還免除規定あり

編集後記

ある音楽番組で、あるアーティストの方が「家族」についてこんな話をされていました。
～家族って血縁関係だとよく言われるけれど、そもそも夫婦は血が繋がってない、血の繋がりは関係ない。いろいろな場面で「仲間」のことをファミリーという。家族の形は様々。最終的には『愛』ってとこに行き着くんですね。家族って面白いなあ、いいなあ。～

里親さん・里子さんの間にはたくさんの「愛」が溢れています。里親会や児童相談所も、里親さん・里子さんと「仲間＝ファミリー」として、たくさんの「愛」で繋がってほしいと思います。（事務局）